

## 作業療法 第40巻 第2号 (通巻221号) 目次

### ◆巻頭言

未来に向けて希望がもてる専門職, 作業療法士 . . . . . 窪田 正大 137

### ◆第54回日本作業療法学会基調講演

Basics of Mixed Methods Research:

Examples for Occupational Therapists (日本語対訳付) . . . . . Michael D. Fetters 139

### ◆原著論文

脳卒中片麻痺患者の上肢運動機能障害に対する振動誘発運動感覚錯覚課題の有効性  
. . . . . 湯川 喜裕・他 158

関節リウマチ患者の携帯電話・スマートフォンの利用状況調査 . . . . . 遠藤 通哉・他 168

上肢整形外科疾患患者に対する作業を基盤とした実践の効果  
—システムティックレビュー・メタアナリシス— . . . . . 大野 勘太・他 178

一人暮らし男性高齢者が人と交流する際の方略と課題に関する質的研究  
～社会参加プログラムの開発を目的としたニーズの解明～ . . . . . 野村 健太・他 186

地域在住高齢者における余暇的生活行為の実態と社会関係との関連  
. . . . . 池田 晋平・他 195

回復期での脳卒中後中等度から重度上肢麻痺に対するロボット療法と修正CI療法を  
組み合わせた介入の効果と退院後の経過 . . . . . 庵本 直矢・他 204

古典的テスト理論による日本版 ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral  
Evaluation (A-ONE) の信頼性と妥当性の検討 . . . . . 東 泰弘・他 214

### ◆実践報告

3D 技術を使用した手指切断に対する訓練用仮義手の作製方法 . . . . . 小林 伸江・他 225

『音楽を楽しむ』という作業の可能化  
—クライアント中心の可能化のカナダモデルを用いて— . . . . . 衣笠真理恵・他 232

呼吸器疾患のクライアントにおけるセルフマネジメントスキル習得を目的とした  
Cognitive Orientation to daily Occupational Performance (CO-OP) による実践  
. . . . . 今岡 泰憲・他 239

骨盤部悪性腫瘍に対するHip transposition法を施行された患者の社会復帰  
. . . . . 岡 佳純・他 247

促通反復療法と神経筋電気刺激の併用療法により, 上肢機能, ADL が改善した  
中心性頸髄損傷患者の一例 . . . . . 藤本 皓也・他 253

### ◆短報

在宅復帰後の作業参加とストレスに関する検討  
—自記式作業遂行指標 (SOPI) と心拍変動解析を用いて— . . . . . 石川真太郎・他 262

## 編集後記

▶手元の記録では 2003 年から本誌編集委員を務め 18 年が経過したことになる。この間、作業療法の臨床研究を啓発してきた甲斐があつてか、最近では掲載される論文・実践報告がかなり充実してきたように思う。大学院教育も始まり、研究にチャレンジする臨床家が増えてきたことが要因であろう。作業療法の実践は多種多様で、チーム連携のなかで独自の効果を示すことは容易でない。しかし、実践の成果を示し続けることが職能の維持と発展には不可欠である。後発のみなさんには、国内の医療・保健・福祉・教育・就労等の諸課題に取り組みつつ、海外の動向にも目を向け、意味のある作業療法の提供と、その研究成果の公表に積極的に取り組んで欲しい。（M・K）

▶この一年、コロナが引き起こした影響の一つに日常だった大切な作業ができないという現象があり、私たちにとっての作業の大切さを痛感させられた日々でした。また一方で、大切な作業を取り戻すための人々の努力や適応力も目の当たりにし、“作業的存在”の真の意味を実感する機会ともなりました。そしてコロナ禍の今だからこそ、作業療法として世の中に発信できる研究があるのではないかと考えています。編集委員としてのお仕事は、この 3 月で卒業となりますが、そうした人間にとっての“作業”を考え発信する研究を、私自身、続けていきたいと新たな決意を固めているところです。（K・S）